

□□○—————○□□

■□■□■ J A T E Tニュース 号外(85-4) ■□■□■

2010年12月1日(水)

<http://www.jatet.or.jp/>

バックナンバー：<http://www.jatet.or.jp/com/net-sm/jnews.html>

□□○—————○□□

最新の活動情報はココでチェック

CHECK --> <http://www.jatet.or.jp/jim/katsudouyotei/katudou.htm>

□■□ J A T E Tニュース 号外(85-4) □■□

▼ JATET FORUM 2010 の開催が近づきました！！

JATET20周年および公益社団法人移行記念事業 JATET FORUM 2010 は、いよいよ12月3日(金)～4日(土)にあうるすぽっと(豊島区立舞台芸術交流センター)にて開催されます。

最終スケジュールは以下のように決定しました。

URL:<http://www.jatet.or.jp/com/forum/JF2010/101130chirashi-final.pdf>

皆様のご来場をお待ちしております。

なお、先に11月13日に配信しましたJ A T E Tニュース 号外(85-2) 以後の修正、追加情報の主なものは以下の通りです。

- ①協賛を依頼していた20団体のすべてから正式に協賛のご回答を頂き、新たにNPO法人日本舞台技術安全協会殿からも協賛を頂きました。
- ②講演の演題(仮題)とシンポジウムのパネリスト(仮)は全部正式に決定しました。
高田一郎講師(舞台美術家・JATET会長・OISTAT日本センター会長)の基調講演の演題は「劇場演出空間技術協会の新たな出発にさいして」と変更しました。
大野晃講師(日本舞台監督協会会長)の講演の演題は「これからの舞台監督の役割」(仮題)から「舞台芸術の変革期にあつて舞台技術者の目指すべき方向」に変更しました。
- ③ご参考に、講演、シンポジウムの要約、趣旨説明を以下にご説明します。

12月3日(金)

13:05-13:25 基調講演 「劇場演出空間技術協会の新たな出発にさいして」

高田一郎(舞台美術家・JATET会長・OISTAT日本センター会長)

「劇場文化が人類の歴史とともにあったことを思えば、われわれ人間が生きていくうえで空気や水と同じように欠かすことができないものと考えられます。この劇場文化芸術を、わが協会は、空間技術、演出技術の面から支えようと関係者が

集り、組織し積極的に行動してまいりました。その20周年と、また、公益社団法人移行にさいして、新たな活動を起すべく決意いたしました。変革のとき、今日ここに同士が結集し、劇場というものをあらためて考えてみるのは非常に意義のあることだと思えます。」

13:30-14:30 講演 「我が国の文化芸術振興の現状とこれから」
門岡裕一（文化庁文化部芸術文化課 文化活動振興室長）

「民間と行政の役割分担の見直しや地方分権の推進、人口減少社会の到来、地方の過疎化や少子高齢化の影響、地域コミュニティの衰退、厳しさを増す地方財政、指定管理者制度導入の影響など、文化芸術を支える基盤の脆弱化に対する危機感が広がっている中で、文化芸術振興はどこへ行こうとしているのか、来年1月にまとめられる文化審議会答申の審議状況について最新の状況を解説する。」

14:40-16:00 シンポジウム 「新しい公共ホールの概念」
司会 伊東正示（（株）シアターワークショップ）
パネリスト 松島 規（あうるすぽっと支配人）
桑谷哲男（座・高円寺支配人）

「近年、公共ホールは大きく変化しています。「プロ公演の鑑賞あるいはアマチュアの発表会」、「自主事業あるいは貸館」といった、かつての二元的な捉え方では納まりきれないほど、目的も活動内容も組織形態も、実に多様になっています。そうした新しい公共ホールのプロトタイプであるふたつの劇場の支配人に、それぞれのホールのコンセプトを語っていただきます。」

16:15-17:45 講演 「機構としての公共劇場」
平田オリザ（劇作家・演出家、内閣官房参与）

「これまで日本社会では、劇場の役割は、演劇や音楽を鑑賞する場所という位置づけでした。しかし、劇場法の制定を視野に入れて、これからの公共ホールのあり方を考えると、劇場の役割は多岐にわたります。教育普及や創造活動、さらに地域の芸術活動全般に責任を負うといった広範囲な活動が期待されます。本講演では、劇場が一つの有機的な「機構」として働くためには、どんな知恵が必要なのかを考えてみたいと思います。」

12月4日（土）

13:00-14:30 シンポジウム 「劇場の安全」

司会 本杉省三（日本大学理工学部教授）
パネリスト 桂川潤次郎（（有）桂川研究室）
伊藤久幸（新国立劇場技術部長）
下園浩人（（株）NAC, CIRQUE DU SOLEIL ZED Head of Automatio）
田中伸幸（日本舞台監督協会理事）

「趣旨説明：劇場に安全と安心を

どこを見ても舞台には危険がいっぱいである。上にも横にも舞台装置や照明機材・音響機器等が取り付けられたバトンやワゴンが昇降・移動して来るし、床そのものも迫りや組立式舞台で構成されていたりと、大抵のものが仮設で取付け・取外し可能であることが前提になっていて安定している場所がない。客席は全面的に段状になっているし、バルコニー席の手すりは低い。日本には約3,300館の

公立劇場・ホールがあると言われており（2007年財団法人地域創造調査）、そのほとんどが貸館を主な事業とするものである。一般市民利用者から専門家まで幅広い層に公演場所を提供しなければならない日本型の多目的ホールは、一方で劇場文化の間口を広げ、芸術文化の拡大と向上に貢献してきたが、他方では専門家軽視・安易な文化政策にもつながる危うさを伴ったものである。

こうした多くの施設が、今後の運営にあたってどのような活動を目指すのかによって、安全に関する意識に違いが見られてくるのは当然だろう。しかし、専門的訓練を受けていない人が舞台設備を操作し、管理するような設備・施設が安全につながるのだろうか。ここでは、自らの施設で音楽や演劇などの創造的な制作活動を行ってなくとも、そうした催しを貸館として受け入れている施設における安全について考えてみたい。

情報技術の革新は私たちの日常生活を根底から変えてしまったし、劇場設備・機器にも新技術が応用されるようになってきた。日常生活の場では一昔前には考えられなかった設備機器に頼って生活しているが、それに比べて劇場設備の進行は緩やかだ。ヨーロッパの劇場には歴史的な施設が多く、限られた空間の中で新しい設備の導入・更新を行うことが求められ、また施設と上演組織・劇場技術の結びつきが強い。このため、演出上の技術的要請が劇場技術者に直接伝わり、その蓄積が産業界への刺激となってきた。

舞台技術設備・機器等に関する情報は、かつては各製作会社独自の研究と経験に委ねられてきたが、企業会員を中心とした JATET 技術委員会メンバーの協力と努力により JATET 規格に統一された。JATET の中心的活動は、そうした機器の安全を図っていくことであるが、それを運用することに無関心であることはできない。むしろ、そこでの経験をフィードバックして行くことによってこそ、さらなる向上が図られるものだと考えられる。

舞台設備は日進月歩で高度化・複雑化し、劇場においては各種専門分野への多様な要求、様々な職種・事業者・労働者が混在して作業が行われることから、安全に対する一貫した理念・共通意識とコミュニケーションの必要が求められている。そうした舞台制作プロセスにおいて、何が問題になり、どんな設備・機器に求められ、どんな技術が必要とされるのかなど、実際の現場に従事している経験豊富な劇場技術者に話題提供を頂きながら、会場の皆様と共に考えてみたい。」

14:45－16:45 シンポジウム 「舞台創造の現場における新技術」

司会 小川幹雄（日本舞台監督協会理事長）

パネリスト 土崎研一（丸茂電機（株））

山口拓（東芝ライテック（株））

磯野睦（新国立劇場技術部副部長）

稲生眞（（株）永田音響設計）

渡邊邦男（日本舞台音響家協会理事長）

「JATET では技術委員会において、照明、音響、映像等についての研究を積み重ね、一定の成果が蓄積されると発表の機会を設けています。一方、舞台監督は現在と将来の技術についての情報をいち早く得たいと願っています。

新しい技術とはどのようなものか、あるいは近い将来、どのような技術と出会う可能性があるのか、それらの新技術は舞台創造にどのような影響を及ぼすのか、また、未解決な不安要素は存在しないのか。「舞台創造の現場における新技術」について様々な視点から語り合い考えてみたいと思います。」

17:00-18:00 講演 「舞台芸術の変革期にあって舞台技術者の目指すべき方向」
大野晃(日本舞台監督協会会長)

公益社団法人 劇場演出空間技術協会 インターネット部会 info@jatet.or.jp
〒101-0045

東京都千代田区神田鍛冶町3-8-6 第一古川ビル 2A

TEL 03-5289-8858 FAX 03-3258-2400

<http://www.jatet.or.jp/>

IP電話 050-5530-8182 (FUSION)

■□■□■ J A T E Tニュース 号外(85-4) ■□■□■

□□○

○□□